

3種の標準インターフェースをご用意、あらゆる要求にお応えします

ラインドライバ インタフェース

- ◆ツイストペアケーブルに差動の信号電流を通すことによって極めてノイズの影響を受けにくいインタフェースで、高品位伝送を可能にします
- ◆エンコーダは4.5V～13.2Vの広範囲で動作します、12Vでは標準のAWG28ケーブルにおいても200m以上のケーブル長を実現致します

コンプリメンタル インタフェース

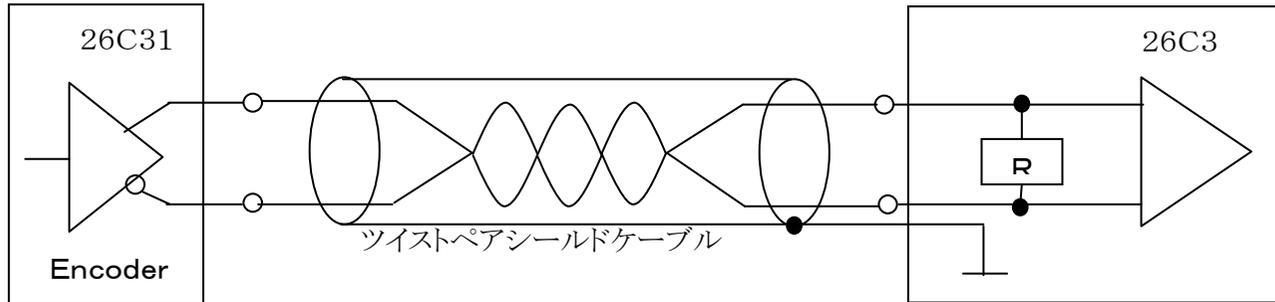
- ◆ケーブル側を常に低いインピーダンス状態でドライブすることによって信号パルスの波形劣化を防ぐと共にノイズの影響を受けにくいインタフェースです
- ◆”電圧出力インタフェース”とは互換性を保ち、さらに高安定なインタフェースです
(従来”電圧出力”をお使いのお客様は安心して”コンプリメンタリ”に置き換えできます)
- ◆エンコーダ電源として4.5V～30Vの広範囲動作を実現しました、システム設計の自由度が広がります

オープンコレクタ インタフェース

- ◆受信側の顧客様側の回路で電圧と電流を決定可能なインタフェースです
- ◆エンコーダ電源として4.5V～30Vの広範囲動作を実現しました、システム設計の自由度が広がります

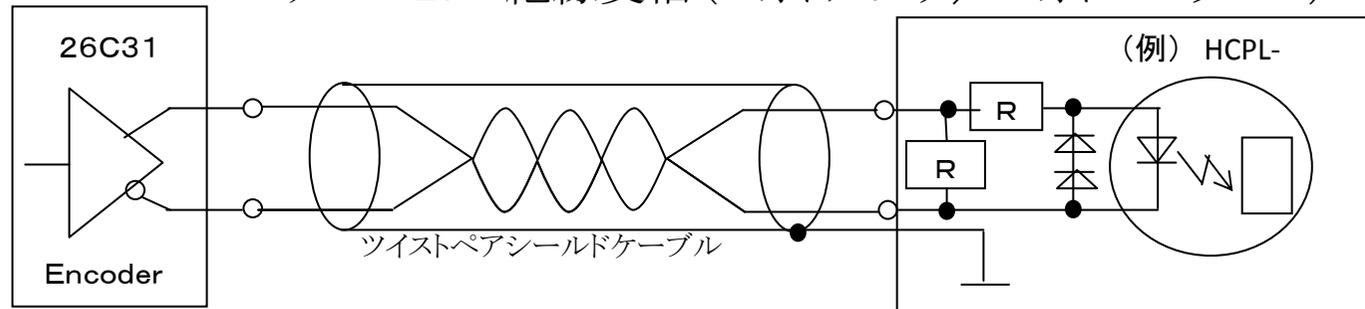
ラインドライバー インタフェース

ケース1. ラインレシーバ受信



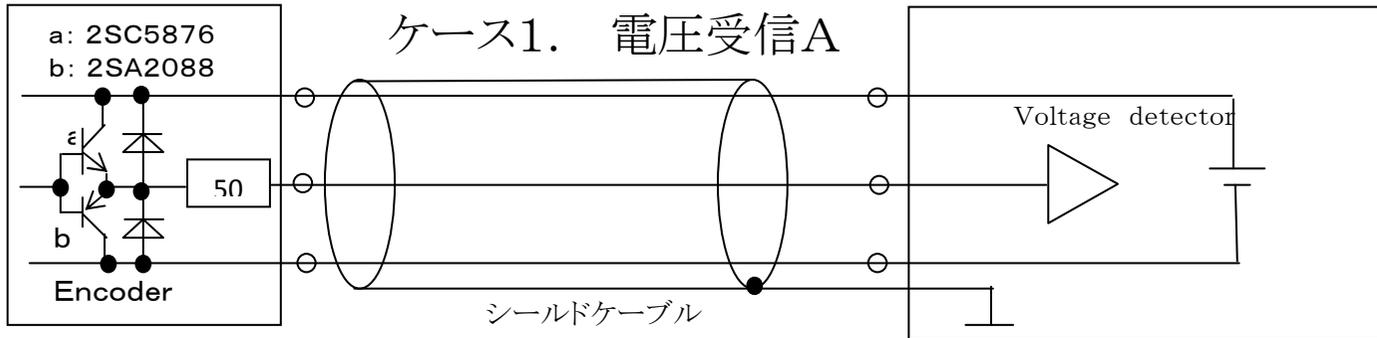
高品位伝送が可能です

ケース2. 絶縁受信 (フォトカプラ/フォトモスリレー)

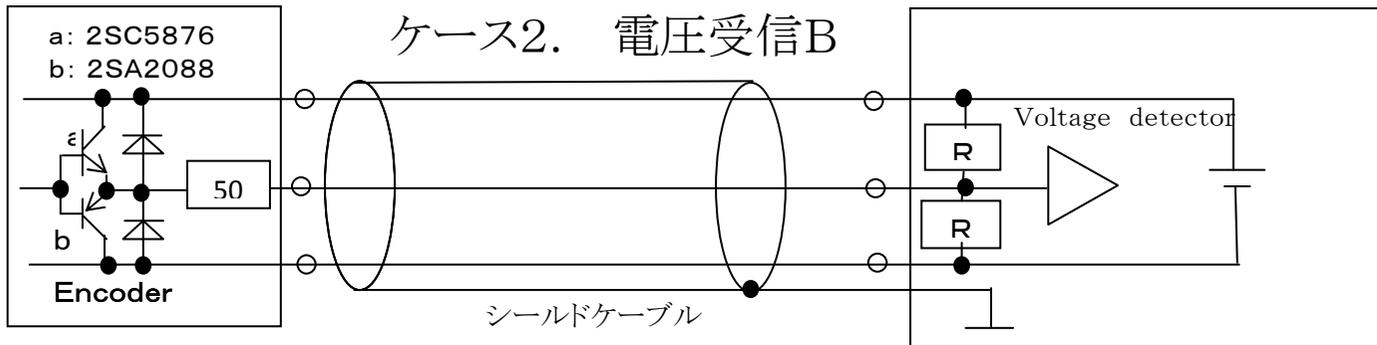


不慮のサージ流入時でも
高品位伝送を継続できます

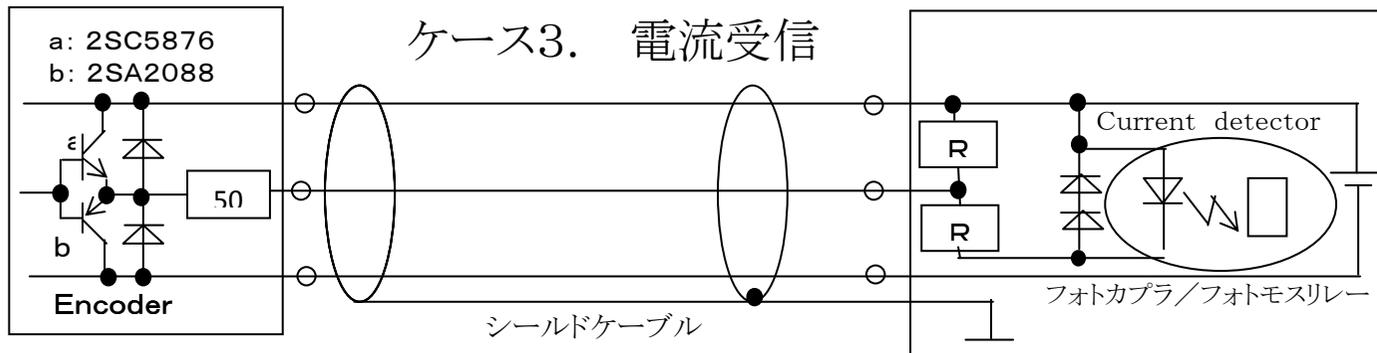
コンプリメンタル インタフェース



- 従来の “電圧出力インタフェース” と互換があります
- “電圧出力インタフェース” に比較しパルス波形の劣化を抑制可能で、ケーブル長もより長くできます



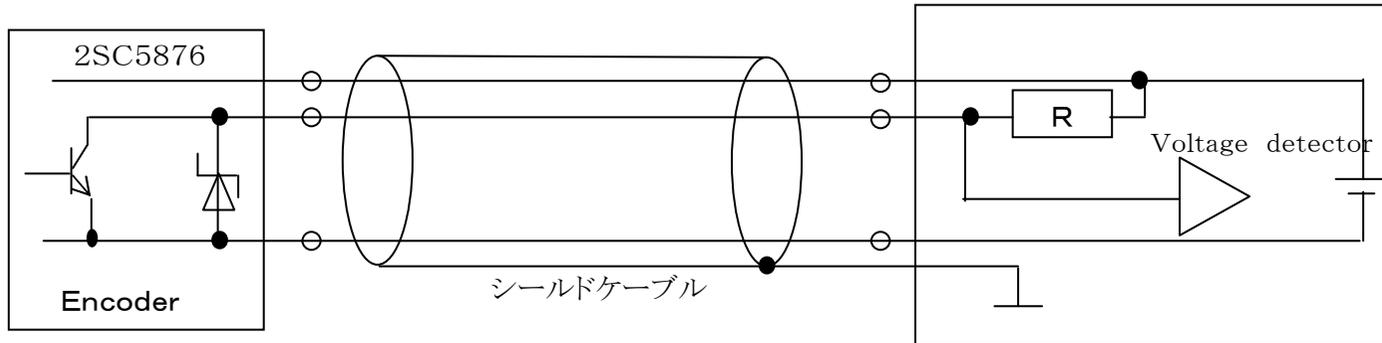
ケース1に比較し、電気誘導ノイズをより受けにくくできます



ケース1, 2に比較し、電磁誘導ノイズ及びサージ流入に対しても、さらに耐力が向上します

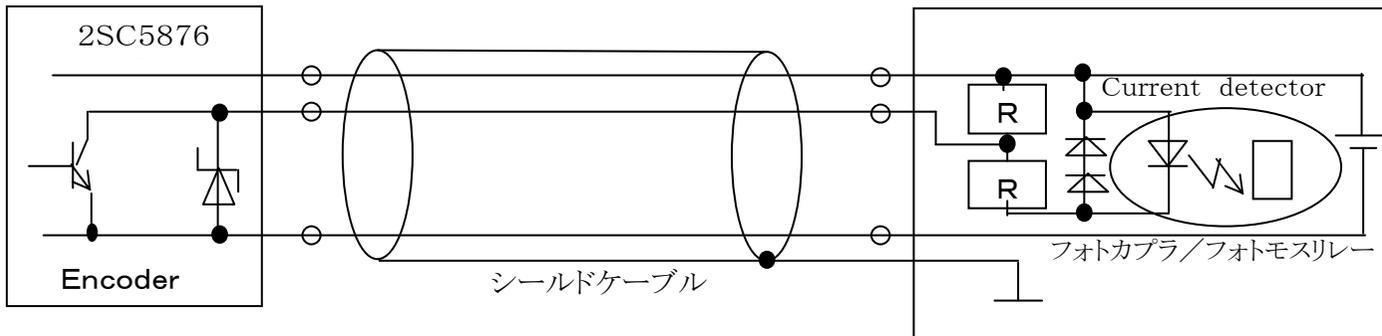
オープンコレクタ インタフェース

ケース1. 電圧受信



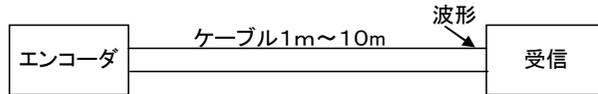
ラインドライバー, コンプリメンタルに比較して
ややケーブル長が制限されます

ケース2. 電流受信

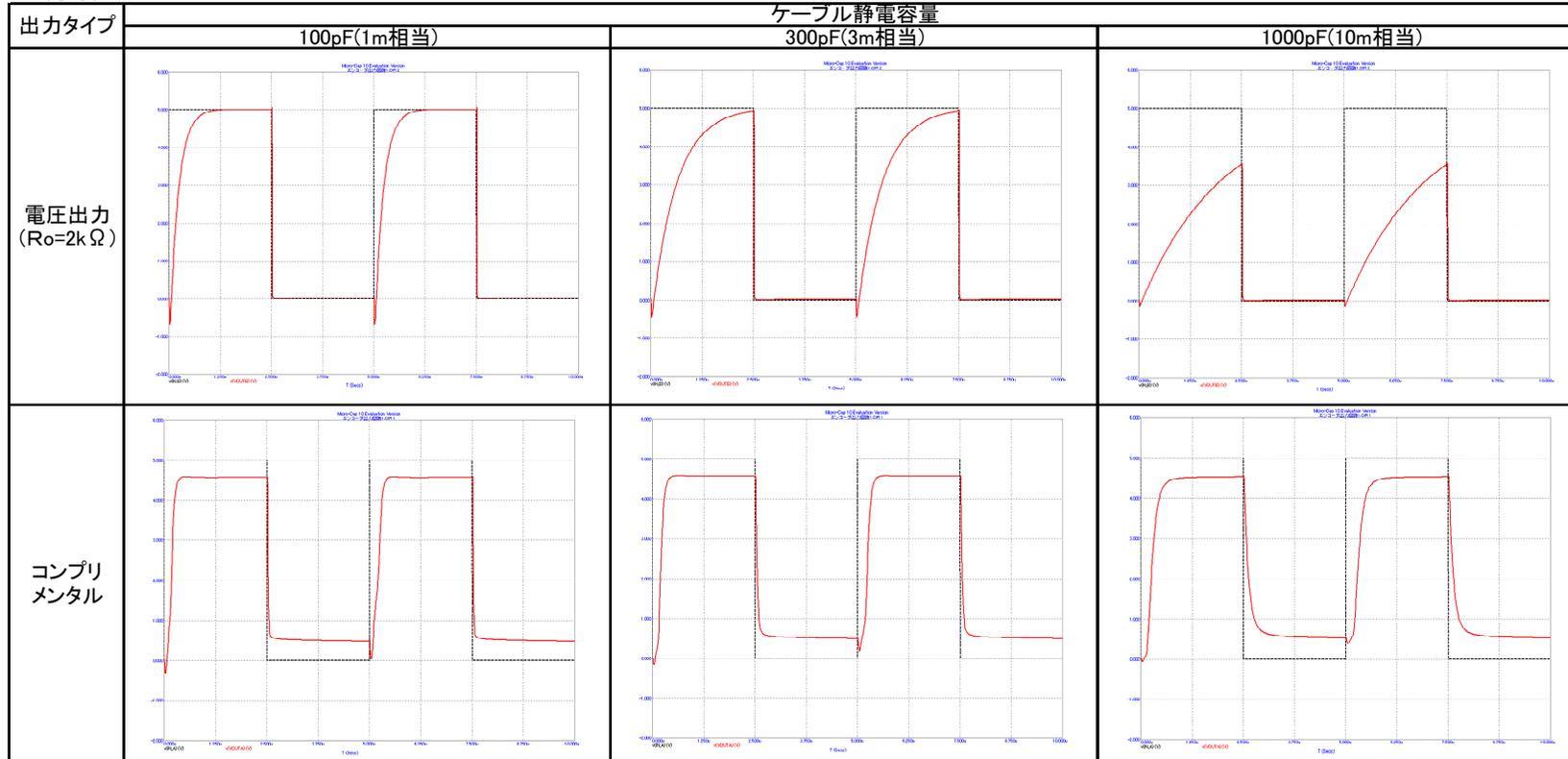


ケース1に比較し、電気誘導ノイズを
受けにくくなります。

電圧出力/コンプリメンタル出力波形比較(SPICE Simulation)



f=200KHz
Vc=5V



”電圧出力”は波形劣化
が大きい、ケーブルにもよるが
数メートルが限度

”コンプリメンタル”は波形劣化
が少ない、ケーブルにもよるが
20mも可能